二〇二一年六月一二日

あの猫のふと来なくなり梅雨の入り　よし子

煮こぼれる麦茶の薬缶傷だらけ　よう子

青葉闇碇錆びたる鎮魂碑　なつき

円相の茶掛を床に夏座敷　凡士

青葉してふくらむ月見櫓跡　なつき

黒南風の浜に漁網の山二つ　こすもす

玉解いて木道狭む芭蕉かな　愛正

宇治はよし茶そば啜れば若葉風　はく子

月山を望みて摘めるさくらんぼ　わかば

借景は白鷺城や薪能　凡士

山門へあぢさゐの海進むごと　むべ

昼寝せる母を擽るややの足　よう子

夕焼空祈り心地に鍬仕舞　かかし

杣が家の祈りに似たり夕河鹿　素秀

筋塀の五線譜めきぬ濃あぢさゐ　むべ

賑やかな塒雀や街薄暑　はく子

山門をくぐり牡丹の燈のぼる　よし子

東北の旅の土産のさくらんぼ　わかば

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年六月一三日